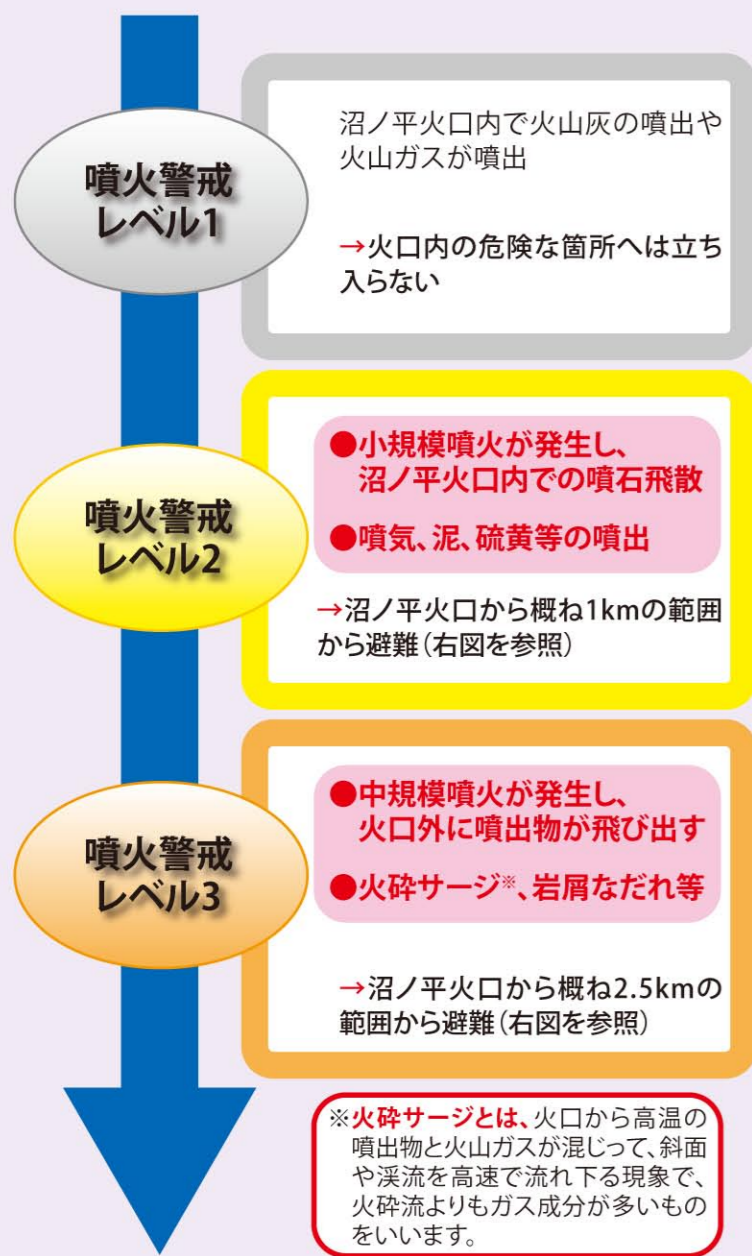




安達太良山は、しばしば噴気活動がみられ、過去に噴火を繰り返してきた活火山です。近年では、明治32年、33年に水蒸気噴火をし、周辺に火山灰を降らせました。

安達太良山では、県、市町村、気象台、地方整備局、自衛隊、警察、消防、観光団体、火山専門家などが参加した「安達太良山火山防災協議会」を設置し、関係者が連携して、住民、登山者、観光客の避難対策を検討しています。

■噴火警戒レベル1～3で考えられる噴火(火口周辺で被害が発生します)



この図は、沼ノ平火口で噴火した場合の噴火警戒レベル2(火口周辺規制)及びレベル3(入山規制)の規制範囲を示しています。

- レベル3(入山規制)火口中心から概ね2.5kmの範囲(登山道)
- レベル2(火口周辺規制)火口中心から概ね1kmの範囲(登山道)
- レベル1(活火山であることを留意)状況に応じ沼ノ平火口内の危険な箇所(沼ノ平火口の範囲)

■火山活動の状況と避難

火山の様子	過去の事例	噴火警戒レベル	市から出される避難情報	住民等の行動	
				要配慮者	住民
火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。	1996年9月:白色噴気30m、沼ノ平中央部で泥の噴出、直径100mに飛散。 2000年2月:一時的に噴気300mまで上がる。	レベル1	活火山であることを留意	通常の生活	通常の生活
火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生あるいは発生すると予想される。	1899年8月24日:噴火、沼ノ平火口で水蒸気爆発。直径40mの新火口生成。降灰東方数km。 1997年4月頃~:沼ノ平火口底の地中温度上昇。	レベル2	火口周辺規制	通常の生活	通常の生活
居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	1900年7月17日:噴火、沼ノ平火口内で水蒸気爆発。火口内硫黄精錬所が吹き飛ばされ72名死亡、10名負傷。	レベル3	入山規制	状況に応じて避難準備	状況に応じて避難準備

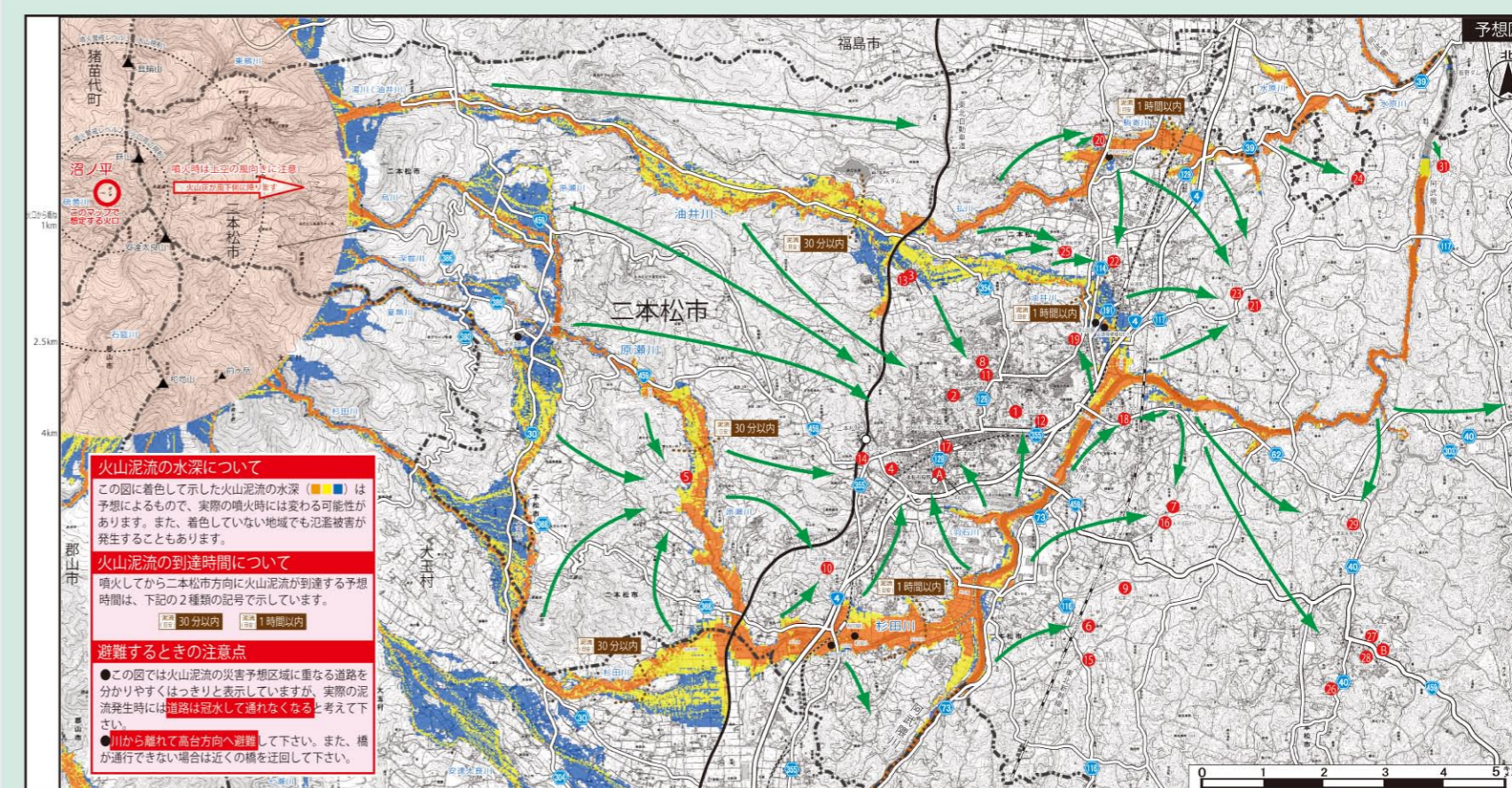


■噴火警戒レベル4以上で考えられる噴火(居住地域まで被害が及びます)

融雪型火山泥流の危険区域 一積雪期の噴火一

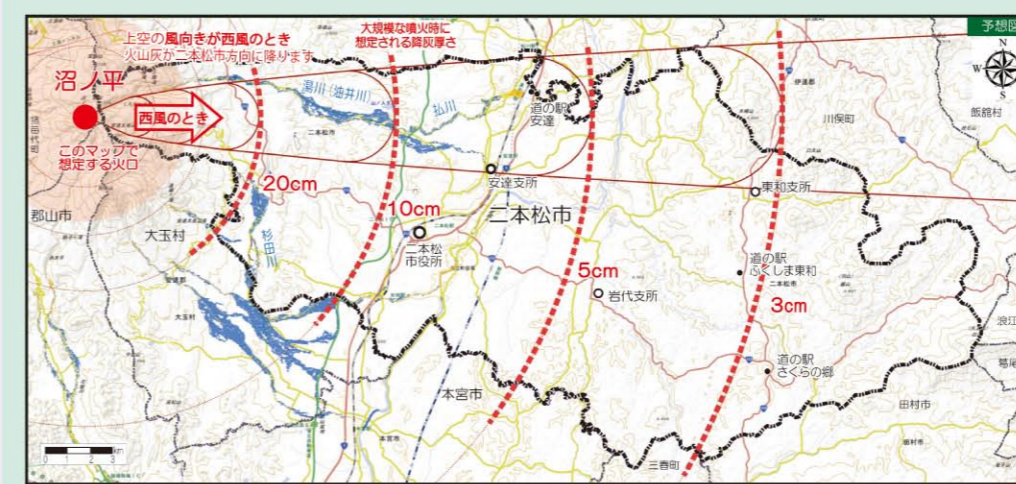
2016年改訂版「安達太良山火山防災マップ」より

山に雪があるときに噴火が起きると、噴出物の熱で火口周囲の雪が一気に融けて、火山泥流が発生しやすくなります。



火山灰の降灰エリア・降灰後の土石流 一大規模な噴火の時に想定される降灰一

沼ノ平火口の上空の風向きが西風のときに、火山灰が二本松市方向に降ります。山の斜面に火山灰が積もると、その後の雨で土石流が発生しやすくなります。



火山防災マップで確認してね!

二本松市では、「安達太良山火山防災マップ」を配布しています。

安達太良山で発生が予想される噴火現象とその被害や、その他の現象の詳細については、「安達太良山火山防災マップ」をご確認ください。

※市ウェブサイトでも確認できます。



■火山活動の状況と避難



想定される現象	噴火警戒レベル	市から出される避難情報	住民等の行動	
			要配慮者	住民
噴火に伴う融雪型火山泥流が発生し、居住地域まで到達すると予想される。	レベル4	高齢者等避難	避難開始	警戒が必要な居住地域での避難の準備
噴火に伴う融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいはそのような噴火が切迫している。	レベル5	避難指示	避難開始	危険な居住地域からの避難等